

# 全国ネット通信

Vol.16  
2014  
秋号

平成26年10月1日発行

## 環境教育と気候変動 ～ESDユネスコ世界会議へむけて～

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)理事

森 高一



気候変動枠組条約が採択され、署名を開始したのは1992年のリオの「地球サミット」でした。地球サミットでは、地球規模の持続可能な開発を各国のパートナーシップによって実現しようという「リオ宣言」が出され、その実現のための「アジェンダ21」が採択されます。このアジェンダ21にはあらゆる行動や原則が含まれますが、中でも教育は重要事項に上げられました。

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略称で、直訳すると「持続可能な開発のための教育」です。言わずもがなですが、人類が今後も持続していくためには、単に環境保全にとどまらず、平和や人権、ジェンダー、貧困と経済、国際理解など極めて困難な多くの問題を解決していく必要があります。中でも地球温暖化は大きな問題です。全国で皆さんがあげられてきた、地域での地球温暖化対策やその学習は、さまざまな取組が進む日本のESDの一つの流れであると言えましょう。1992年の地球サミットがそれぞれの起点なっています。ESDはそんな時代背景から生まれました。

次のタイミングは、2002年のヨハネスブルグサミットです。ここで日本政府が中心になり「国連ESDの10年」(Decade of ESD)を提案しました。2005年からの10年間、世界中でESDを積極的に推進しようというものです。これが採択され、ユネスコがリードエージェンシーとなって各国でESDの取組が進みます。もちろん提案国である日本も力を入れて、特に民間の活動者が積極的に動いて、さまざまな主体がESDとは何か考え、つながり、取り組んできました。ESDの特徴は、主体になるのが学校だけでなく、地方自治体や企業、大学、NGO/NPO、若者、地域団体などとても広範な場で展開されるという点です。

環境教育は、日本では狭義に自然体験や自然保全に関わる教育と目されてきました。ですが、2011年に環境教育促進法として改正された際、「持続可能な社会の構築を目指して」「あらゆる場において、環境と社会、経済

及び文化のつながり」の重視が盛り込まれ、ESDへの道筋へと通じていきます。

世の中に、環境教育、開発教育、地球温暖化教育ほかいろいろな〇〇教育があり、それぞれ熱心にその課題に取り組む方々がいます。ESDはそれら個別の教育がばらばらに進められ、「〇〇がわかった」で終わるのでなく、それが他の問題や地球の問題ともつながり統合され、ひいては持続可能な社会づくりや地域での行動に移していくことを重視しています。ですからESDは、学校だけで終わらず地域に関わり、特定の知識の習得で終わらず多様な主体と「協働」し、それに「参画」して「継続」することを重視しています。大きな目的に向けて「連携」することこそが求められています。

今年2014年が、この国連ESDの10年の最終年となります。11月10～12日に名古屋市国際会議場で、この10年の総括を行う「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。それに先立ち前週には、岡山市で「グローバルRCE」と呼ばれる世界のESD拠点の大会や、「ユネスコスクール世界大会」「ユースカンファレンス」など関連イベントが行われます。残念ながら、世界会議は各国からの関係者ののみの参加で、一般の方の参加はできません。閉会後の翌13日に、国内参加者を集める国主催の「フォローアップ会合」が企画されています(詳しくは公式HPもしくはESD-JのHP：<http://www.esd-j.org/>をご覧ください)。

今回のフォローアップ会合は、これまでの総括とともにこれからの方針を示す大きな基点となるものです。皆さんの参加をお待ちしています。

ESDユネスコ世界会議関連イベントの参加者募集HP  
[https://convention-net.jp/cg/esd\\_reg/index.html](https://convention-net.jp/cg/esd_reg/index.html)

- ・NPO法人日本エコツーリズムセンター 共同代表理事
- ・平成26年度地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会  
普及啓発ツール・コンテンツ等検討部会委員(環境省委託)
- ・平成26年度温暖化行動変容エンパワーメント・プログラム開発検討委員会委員及びWG座長  
(地球環境基金事業)

# 2014年はESD year!

## ～全国ネットの環境教育ツールとESD～

本年11月、岡山市、名古屋市でESDユネスコ国際会議が開催されます。

これにさきがけ、今夏、全国ネットはESD・環境教育の分野への新たなるチャレンジとして下記2つの会合に参加し、全国ネット及び地域センターの環境教育についての報告を通して、気候変動分野(地球温暖化防止分野)における事例を発表してきました。

### ◆ESD実践モデル全国会議2014 8月20日(水) 国連大学(東京都渋谷区)

会議は「防災教育・気候変動教育」「生物多様性」「持続可能な生産と消費」「歴史文化遺産」「貧困撲滅・社会的公正」の5テーマに分かれ、先駆的なESD-JAPANモデルの発表とテーマにおけるESDの日常化について意見交換が行われました。会議冒頭の総括と展望において、5つのテーマの中でも最重要課題と位置付けられた分科会「防災教育・気候変動教育」。ここで、全国ネット企画調査グループとして提案する「全国ネットJAPANモデル」の発表を行いました。このモデルでは、地域で活動する地球温暖化防止活動推進員等の指導者が地域特性を加えてアレンジできることを念頭に開発された教材ツールを使った地域での事例などを報告しました。今後は地球温暖化にとどまらない様々な主体と連携をとり、すべてのジャンルがつながった形の新たなるモデルへと発展させていきたいという展望も発表しました。



### ◆日本環境教育学会 東京大会 8月3日(日) 法政大学(東京都千代田区)

ツール・コンテンツ部会の成果の一つとして、全国ネットより「全国ネットの環境教育について」を発表、ホワイエでは、最新の参加型教材ツール「○○ボックス」を紹介するポスター発表を行いました。気候変動教育への最大関心事項として多く聞かれたキーワードは「適応」。迫りくる気候変動に適応していくことを考えるような教材を望むという意見をいただきました。また、多くの方の足をとめた○○ボックス展示では、考え方や伝え方は「教育」という部分で通じるため「異分野のテーマでも学びができる、目からウロコです」といった意見もいただきました。全国ネットでは今後も参加・学び合いを通して「考えるチカラ」を培い、未来を見据えた生き方やこれからの暮らし方を改めて考え、行動へとつなげていく“ストーリーを紡ぐ”学びのスタイルを展開し続けていきたいと考えています。



今年5月のNEW環境展／地球温暖化防止展のJCCAブースにて部会のみなさまと  
(地域センターからは写真右より、愛知の児玉氏、滋賀の来田氏、島根の伊藤氏が参加)

ツール・コンテンツ部会<sup>1)</sup>(委員に森高一さんも)では、地域センターの方々からツール利用の実態をお聞きし、新たなツール開発の意味づけや普及策を考え、どうすれば地域に役立つものになるか、全国ネットの役割は何か、ワイヤイガヤガヤ検討しています(結果の一部を日本環境教育学会東京大会で発表)。滋賀県センターはじめ、いくつかの地域センターでご当地活動・ご苦労を見聞きしました。コンソ事業の事後評価<sup>2)</sup>もお手伝いしていますので、いろいろな地域センターにお邪魔したいです。今年12月のエコプロダクツ展では、地域センターのご当地ツール展示も検討中。来て・見て・話して、お互いに学び合いましょう！

藤野純一(国立環境研究所)



1)平成26年度 地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会 普及啓発ツール・コンテンツ等検討部会

2)平成26年度 エネルギー対策特別会計補助事業(地域拠点における二酸化炭素排出抑制対策事業) 検証・評価委託業務(地域活動支援・普及啓発業務) 評価委員会

全国ネットの教材ツールについて詳細はこちら <http://www.jccca.org/tool/>

# 【食とガーデニングを通じた気候変動教育

## ～飲食・ガーデニングの専門家が活用できる気候変動教育プログラムの開発～

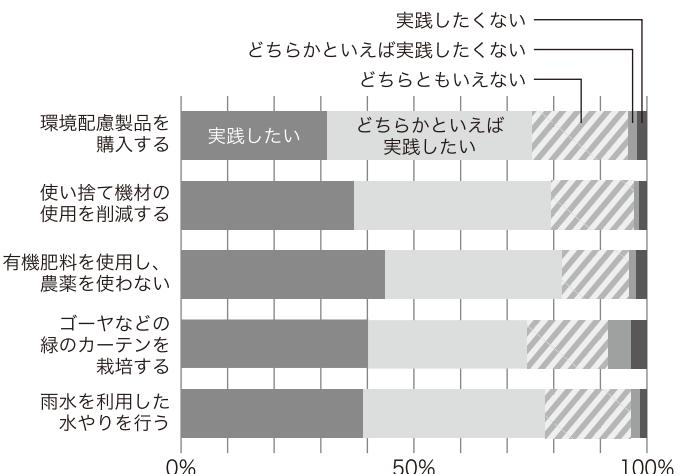
地球環境基金の助成を活用して、全国ネットでは様々な分野の専門家が活用できる気候変動教育プログラムの開発を2013年度から開始しています。昨年度は、気候変動教育が最も効果的な関心分野について調査を実施しました。その結果、飲食とガーデニングに関心のある人は、環境配慮の行動変容をする可能性が高いことが分かりました。右図はガーデニングに関心のある方へのアンケート結果ですが、どの取組みも「実践したい」「どちらかといえば実践したい」の回答が合わせて70%以上でした。

そこで、今年度は、飲食分野は「NPO日本食育インストラクター協会」、ガーデニング分野は「公益社団法人日本家庭園芸普及協会」と連携して、各団体が所管している「食育インストラクター」と「グリーンアドバイザー」の有資格者を対象に、気候変動を伝えるプログラム開発とモデル講座を実施しています。

モデル講座として、9月28日には「食育インストラクター研修会」で約350名の受講者に対象に、「地球の食を考える」をテーマに気候変動と食育の関係について、本事業ワーキンググループメンバーで料理研究家の安井レイコさんが話をしました。

11月からは食育インストラクターやグリーンアドバイザーを対象にした「飲食／ガーデニングを通して気候変動を伝えるワークショップ」を開催し、その後、各専門家と地球温暖化防止活動推進員が共に参加するワークショップを計画しています。

来年度は、開発した気候変動教育プログラムを活用し、様々な地域でモデル事業を展開する予定です。



図：ガーデニングに関心がある方の環境配慮行動への意識調査



全国から集まった食育インストラクター講習会（都内）

# 【本格始動！うちエコ診断】

第1回うちエコ診断資格試験を、8月9日(一次試験：筆記)ならびに9月4～5日(二次試験：実技)に全国5会場(仙台、東京、名古屋、大阪、福岡)で実施しました。

うちエコ診断士試験には1,071名の受験者が挑戦し、359名が見事合格しました。一次試験当日は台風11号の接近と重なり、実施が危ぶまれましたが、予定通り進めることが出来ました。これにより今春実施した更新研修会修了者の794名とあわせ1,153名による診断実施体制が整備出来ました。

一方、うちエコ診断実施機関は、これまでに地域センター・自治体・民間企業合計で49団体が認定(9月17日現在)を受け診断活動を続けています。前述の資格試験を経て、住宅・リフォーム業界に關係する民間企業からの申請が増えています。青森県、宮崎県、沖縄県の3県を除く44都道府県で受診が可能になります。

年度末までには、8,096件の診断が予定されており、受診世帯においては、エコロジーでエコノミーな生活をエンジョイするためにも、うちエコ診断による対策提案を確実に実行していただくとともに、より多くの方々に受診いただけるように、環境省とともにうちエコ診断の普及を図っていく予定です。

表：第1回うちエコ診断資格試験実施結果

資格名	うちエコ診断士
受験者数	1,071名
合格者数	359名
合格率	33.5%



うちエコ診断に関する詳細はこちら <http://www.uchieco-shindan.go.jp/2014/>

# 第7回 3R・低炭素社会検定、受験者募集中！

3R・低炭素社会検定制度は、私たちが生活する地域や企業そして行政で直面している廃棄物と地球温暖化対策を切り口として、持続可能な社会の構築を目指しています。当検定では、この問題の解決に向けて「3R」と「低炭素社会」に関する基本的な知識を提供しています。

検定試験に先駆けて、11月中旬から12月中旬に全国で試験検定講習会を開催します。半日コースと1日コースがあります。テキストの理解を助け、出題ポイントを解説するお役立ち講座です。なお、公式テキスト(改定版)を10月末に発売します。

詳しくは、「3R・低炭素社会検定」のHP(<http://www.3r-teitanso.jp/>)をご覧ください。

□試験日 2015年1月11日(日)

□会場 全国11か所

(仙台、東京、名古屋、鯖江、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡、熊本)



## 3R・低炭素社会検定合格者向け研修会を開催(報告)

3R・低炭素社会検定合格者のフォローアップのため、関東地域の合格者を対象として「リーダーズ・ミーティング」を9月20日に開催しました。

「IPCC第五次評価報告書と2013年以降の気候変動に関する国内外の動向」について、国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス酒井広平氏(3R・低炭素社会検定・関東地域実行委員長)、「国の3R政策と展望」について環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長の庄子真憲氏の講演があり、その後グループディスカッションを行い、交流を深めました。

## 「全国エコの知恵、 ここにあり」 ～エコプロダクト2014へ JNCCAブース出展～

12月11日(木)～13日(土)に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクト2014」に今年も、全国ネットが出展(東1ホール、ブース番号1-066)します。

今回の展示のテーマは「全国のエコの知恵、ここにあり」。低炭素社会を目指して取り組んでいる全国各地の活動の紹介と全国地球温暖化防止活動推進センターの取組みを展示します。最新の気候変動教育教材の展示や、地域のコンソーシアムによる地球温暖化防止活動の紹介、地球温暖化防止活動環境大臣表彰の紹介など、全国各地の具体的な活動を中心とした展示を行います。「しんきゅうさん」と一緒に楽しい内容にしますので、ぜひ、楽しみに来てください。

### 編集後記

今年の夏は、暑さより豪雨の印象が強い。

10年前、「地球温暖化防止」の言葉で普及啓発活動を始めた頃は、エネルギーを放漫に使っていると、貴方の子供や孫の世代に受けがりますよ、と自分達には影響がないことを前提に話していた。

今年4月から全国ネットに勤務することとなり、10年ぶりに地球環境の分野に戻ると、温暖化の影響は自分の身に降りかかるようになっていた。温暖化は加速度的に進むという事を実感している。

しかし、10年前と今との違いは、関心を持ち、対策を実践しようとする方々が増えたことだ。全国ネットに来て5か月経ち、各地のセンターの方の熱い思いとご苦労を知り、ともにお話しする機会を増やしたいと思っている。どうぞ皆さん、宜しくお願ひいたします。

事務局次長 木村 京子

## エコアナウンサー 櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール

Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。

テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、

「低炭素杯」の司会など。



世界的な気候変動会議のニュースに触れて、「よ～し！家庭でもっと出来ることないかな？」とエコ魂に火が付いた方もいらっしゃるのでは。今回は楽しいエコを二つご紹介。

一つ目は、長野の果物農家直伝「ブドウを長持ちさせる方法」。房ブドウの軸を少し切り、そこに一粒のブドウを差し込むだけ。なんともユーモラスな形ですが少なくとも一週間は、甘みもそのまま、プリンプリンのブドウを楽しめます。



二つ目は、ガスコンロの使用時間大幅削減「保温調理器」。付属の鍋で火を使って調理したら、それを保温調理器に入れるだけ。例えば、ゆで時間8分の乾麺なら、沸騰1分、保温8分。カレーなら沸騰5分、保温30分。ご飯も炊けます。保温時間は火を使わないので、買い物に行っても洗濯物を干しても、他のおかずを作ってもOK。ガスも時間も節約。皆さんも秋の夜長にエコアイディア、楽しんで下さい！



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの  
活動をサポートしてください！

年会費:個人会員 1口 5,000円(1口以上) 団体会員 1口 20,000円(1口以上)

### 編集・発行



一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100 <http://www.zenkoku-net.org/>